

イスラエル国民の攻撃性や忠誠心を高揚させるためにも利用されている。しかし今やこの方法はほころび始めている。今こそ我々はこの問題に対する見識を深め、現地に住む全ての人による平和の回復が実現できるよう議論を進めなくてはならない。

ラブキン教授は「ユダヤ人」問題に手を汚していない日本に期待を寄せていた。しかし筆者は(徐氏も指摘したことであるが)東アジアにおける植民地支配展開のために一九二〇年四月サン・レモ会議で英国のパレスチナ委任統治に賛成票を投じた日本が「フリーハンド」であるとは言えないのではないかと感じた。英国が地中海から石油鉱床地域を抜けてインドに繋がる地域を確保したこの会議は、中東地域の新たな分割統治の始まりを告げた。

中東諸国と東アジア諸国の国境線の形成過程に対する歴史的責任を感じないのであれば、我々は鈍感に過ぎたといえよう。

受贈図書

〔第六〇七号の続き〕

中條献『歴史のなかの人類 ―アメリカが創り出す差異と多様性』北樹出版(二四〇〇円)、田中家文書調査会編『愛媛県宇和島市三浦田中家文書目録 第三集』、田中家史料保存委員会、早矢任不二夫「ほんとの自分を生きる―労働運動のこころ」といのち―青史出版、朝尾直弘『朝尾直弘著作集 第二巻』岩波書店(九四〇〇円)、奥田晴樹『立憲政体成立史の研究』岩田書店(九九〇〇円)、伊藤之雄・川田稔(編)『二〇世紀日本の天皇と君主制―国際比較の視点から 一八六七―一九四七―』吉川弘文館(八〇〇〇円)、丸山竜平『巨大古墳と古代国家』吉川弘

文館(九〇〇〇円)、國方敬司・直江真一編『史料が語る中世ヨーロッパ』刀水書房(九五〇〇円)、赤司道和『19世紀パリ社会史』北海道大学図書刊行会(四五〇〇円)

「ラム

『史資料と展示』

第二二回

歴史に翻弄される古文書―メキシコ、サンクリストバル司教座聖堂文書館の軌跡

小原 正

『インディアスの破壊についての簡潔な報告』を執筆したバルトロメ・デ・ラスカサスがアメリカ大陸での最後の任に就いたのは、中米に設けられたばかりのチアパス司教区だった。インディオの奴隷化を禁止するインディアス新法の成立を見届けたラスカサスは、一五四五年、現メキシコ合衆国チアパス州サンクリストバルに司教として着任した。初代司教がメキシコ市からチアパスに向かう道中で死亡しているため、この地を踏んだ最初のチアパス司教は第二代のラスカサスということになる。

私は二〇一〇年二月から、この司教にちなんでサンクリストバル・デ・ラスカサスと改名された町に住み、教会関係文書の目録作りに従事している。毎朝、中央広場の北側に面した聖ニコラス教会の門をくぐると、左手の小きな広場の奥に、ゆるやかなカーブを描きながらのぼっていく階段がみえる。その階段の通じる先に建っているのが、かつて司教座聖堂参事会の議事室として使われていた、司教座聖堂文書館である。

一六世紀中葉、チアパス司教区は現在のチアパス州だけでは

なく、ユカタン半島全域とグアテマラのペラパス地方を含む広大な範囲におよんでいた。それが紆余曲折をへて今日のチアパス州とほぼ同じ地域を管轄するようになったのは一六世紀末のことで、それから二〇世紀後半に司教区が三つに分割されるまでの約三世紀半のあいだは、司教区に大きな変更もなく、代々のチアパス司教はこのサンクリストバルの町の大聖堂を拠点として先住民に対する布教活動に従事してきた。

サンクリストバル司教座聖堂文書館が秘めていた史料の宝庫としての可能性は、司教区の歴史を概観しただけでも想像できるだろう。チアパス州に関する史料に限れば、一六世紀半ばから二〇世紀半ばまでの四〇〇年にわたる文書群をわれわれに伝えてくれるはずだったのだ。さらに一九〇二年には、司教フランシスコ・オロスコ・イ・ヒメネスの命によって、各教区教会が保有していた洗礼・婚礼・埋葬の記録を含む教区簿冊がこのサンクリストバルの司教座聖堂に集められた。その結果、この文書館の蔵する文書の幅はいっそう広がったのである。

しかし、いま私が作業対象としている文書群は、そのほんの一部でしかない。個々の文書に番号をふり、資料カードをパソコン上で作っていく作業を繰り返しながら私が想いをはせるのは、これらの文書が歩んできたその数奇な運命である。

一九一四年、メキシコ革命の動乱のなか、ベヌスティアノ・カランサ將軍によつてチアパス州に送りこまれた軍隊が当時の司教座聖堂文書館を占拠し、宿泊施設としたことから、この文書館の悲運は始まった。様々な理由からすでに失われていた文書も多かったかもしれないが、このとき兵士たちが寝床のため

の空間を確保するために、書物や古文書の一切を通りに放りだしてしまったことは、この文書館にとって大きな損失であったにちがいない。その後しばらく、サンクリストバルの街頭では、古文書につつまれて菓子やソーセージが売られていたという。そのような状況を憂慮したエドゥアルド・フロレス・ルイス神父は、軍と交渉し、かろうじてその一部を大聖堂内の一室に運びこみ、部屋の入り口を漆喰で閉ざした。こうして神父は、一部とはいえ、文書を守ったのである。

破壊・散逸をまぬがれた文書群は大聖堂内の閉ざされた一室で二〇年ほどの眠りにつく。この部屋に再び光がさしこんだのは、一九三〇年代に州政府から追放を命じられた司教ヘラルド・アナヤが入り口の漆喰を砕いてこの部屋に入り、身を隠したときだったと言われている。

以来、フロレス・ルイス神父がこれらの古文書を管理することとなったのだが、安息は長くは続かなかつた。一九七七年、新館長アンヘリカ・インダのもと、新たな文書整理方針が打ち出される。新館長の方針とは、それまでの文書群の組織・分類基準を変更し、彼女が現代的視点から選んだテーマごとに、たとえば「チャムーラ村・疫病」といった形で、個々の文書を再分類し、物理的に配置しなおしていくものだった。翌七八年、文書館は現在の場所に移転し、文書の一般公開がはじまった。こうして文書は、ようやく歴史研究のための史料へと転化する。以後も文書整理作業はおよそ三〇年間継続された。

しかし、一見、歴史家にとって有益に思われる再整理作業は、文書群の本来の組織・分類を無視するという問題を抱えていた。

個々の文書が司教座聖堂のどの部署で作成、分類、保管されてきたのかを伝えるはずの物質的痕跡を根こそぎにすることで、革命期の混乱に匹敵する損失を引き起こしたのである。

メキシコ大学院大学ファン・ペドロ・ヴィケイラ教授の指揮のもと、私ともう一人の助手が行っている目録作成は、過去三〇年の文書整理が消し去った痕跡をなんとかして復元することを目的としている。文書のカードを作る際には、それがかつての組織・編成のなかでどのような位置をしめていたかを推測し、カードに書き込んでいく。推測が困難なときもある。しかしこの作業が終わったとき、サンクリストバル司教座聖堂文書館は歴史研究を支える確かな基盤として機能するだろう。

そんなことを想いながら、私は一枚、また一枚とカードを作成していく。ふと目をあげると、窓の外では朝からの雨がやみ、新しい陽の光にてらされて遠くの山の輪郭がくつきりと見えている。町の中央広場は、色あざやかな衣装をまとった先住民や観光客でにぎわいを取り戻していることだろう。

お知らせ

中京大学国際教養学部教員公募について

- 一、担当科目 全学共通科目の「日本史」および関連科目
- 二、職名・採用人数 講師または准教授一名
- 三、応募資格 ①文献歴史学を専攻し、日本前近代史の分野に主たる業績を有する者②博士の学位を有する者、またはそれと同等の研究業績を有する者③名古屋市またはその近郊に居住加

納な者

四、採用時期 二〇一一年四月一日

五、応募締切 二〇一〇年九月一〇日(金) 必着

*応募書類・選考方法・書類提出先など詳しくは、中京大学ホームページを参照下さい。 <http://www.ijs.chukyo-u.ac.jp>

問い合わせ先 中京大学教育学部学事課国際教養学部担当

FAX: 〇五二・八三五・七一九七 まずFAXで問い合わせ下さい。

東京外国語大学海外事情研究所・高大連携事業 夏期世界史セミナー世界史の最前線II開催のお知らせ

世界各地域を担当する本学歴史学担当スタッフによる最新の研究成果公開および高校で世界史教育を担当する先生方との対話を通じた世界史教育への新たな視座の提示を目標に、昨年度に引き続き二度目のセミナーを実施します。今年は見聞交換会も設け、さらに交流の機会を増やします。どうぞご参加下さい。(申込みは七月二三日まで)

場所 東京外国語大学府中キャンパス研究講義棟一〇五(予定)
対象 高等学校、予備校の世界史担当教員

費用 無料、懇親会(八月三日一七時四五分より) 三〇〇〇円

八月三日(火曜日) 一三時〜一七時三〇分

小川英文「狩猟採集社会は「文明」の呪縛から抜け出せるか」
千葉敏之「沈黙の共同体―ハンド・サインから見る中世ヨーロッパ」

林佳世子「オスマン帝国史の描き方」